

バラ新品種「マリアージュ」誕生！

果樹花き研究部

切り花用のバラ新品種「マリアージュ」がデビューしました。

バラは神奈川県の花き栽培の主要な品目であり、県では昭和54年より本県の気候条件や作型に合った、高品質で多収性のオリジナル品種の育成に取り組んできました。これまでに9品種が品種登録されており、新たに10番目の品種として、「マリアージュ」の品種登録を出願しました。

このバラは平成12年に、県で育成した優良系統（中間母本）のバラと小輪で花色が淡いピンク色の品種「アリーナ」で交配を行い、育成されました。切り花



マリアージュ

1本あたりに4～5輪程度花がつくスプレー

タイプのバラで、数本でボリュームある花束を作ることができます。花持ちは良く、特に冬期の長期観賞ができます。

紫ピンクの花色と美しい花形を有し、気品ある大人のウエディングを彩ることができるバラになるようにとの願いを込めて、フランス語で「結婚」を意味する「マリアージュ」と命名されました。

今後、ネーミングのとおりウエディングでブーケや装飾等への利用が期待される他、誕生日や記念日のプレゼント、フラワーアレンジメント等に幅広く利用していただきたいと思っています。

屋上緑化について

果樹花き研究部

昨今のニュースで「地球温暖化」という言葉をよく耳にします。この原因の一つとして緑の喪失が大きく影響しているといわれています。しかし、緑を増やすといっても都市ではその場所を確保することも容易ではありません。そこで建物の屋上を緑化して緑を増やし、心の安らぎを満たすのが屋上緑化です。

農業技術センターでは、開発・育成したマット植物や新品種のサルズベリを導入して、試験的に県内の公共施設の屋上に緑化を進めています。マット植物を利用することにより従来のポット苗とは異なり植穴を作成することもなく施工時間が短縮でき、即完成した緑化面を作ることができます。

併せて、緑化以外の歩行箇所にはゴムチップ（古タイヤ）と木材チップ（木造住宅の解体資材）を主原料とする弾性床材を使用しています。



屋上緑化の様子